地質ニュース

昭和49年4月　第236号　1974

国際会議　アメリカにおける地熱国際会議に出席して……馬場健三‥1

海外事情　ソ連ヤクートの天然ガス……岩本文男‥6

アジア極東地質構造図について(その2)
～プレート・テクトニクスとインドネシア付近の地質構造‥広川治‥14

ビルマ調査行雑記②
～ミネラライトを手に～……岸本文男‥35

東南アジア諸国の鉱業の現状'72……松井寛訳‥46

地質調査所発行の各種地質図名一覧……58

編集　地質調査所

表紙の写真

発行　株式会社　実業公報社

融蝕黄鉱鉄

黄鉄鉱は　極めて自形性の強い鉱物で　キースラーガーや黒鉱のような緻密で塊状の鉱石中にあっても　研磨片にして調べてみると　ほとんどの場合　個々の結晶はきちんとした結晶学的外形を持っている．　ところが　一度結晶が晶出した後で　周囲の物理化学的条件が変化すると結晶は溶解したり他の鉱物種で交代されたりすることがある．　溶解や交代は　結晶全体に渡って一様に行なわれるのではなく　結晶の隅や稜あるいは割れ目や不純物の多く含まれる場所などで優先的に侵行するので　もともとの結晶の形は　丸味を帯びたり虫喰い状になったりする．このような現象は　黄鉄鉱だけに限ったことではなく　一般に融蝕組織(corroded texture)と呼ばれるが　自形性の強い黄鉄鉱では特に顕著に現れるので　しばしば研究者の注目を魅いてきた．
写真は　秋田県小坂鉱山内ノ岱鉱床の　いわゆる半黒鉱と呼ばれる鉱石中にみいだされたもので　典型的な融蝕黄鉄鉱の例である．　黄鉄鉱の周囲を埋めているのは黄銅鉱で　黄鉄鉱が浮き上ってみえるのは　両者の研磨硬度の差によるものである．　約150倍　(遠藤祐二)